

# 中国（台湾）における読解指導

——章微頼氏による「落花生」の指導案——

## 南 本 義 一

自身の手になる、小品「落花生」の指導案を紹介（訳出）し、若干の考察をこころみようとするものである。

### 二

教材「落花生」は、落花生の筆名をもつ許地山の散文集「空山靈雨」（一九二三年）所載の小品である。作者許地山（一八九三—一九四一年）については、指導案のなかでもとりあげられているが、燕京大学出身、一九二一年「小説月報」に処女作「命命鳥」を発表して以来、多くの小説・散文を書いており、インド文学・仏教思想に造詣が深く、特異な作風で新文学運動初期に活躍した。

原文を入手できなかったので、金丸邦三氏の翻訳を利用させていただく。ただし、段落は指導案に合わせて改め、それぞれのはじめに①—⑤の番号をつけた。

落花生

① 私たちの家の裏に半ムーほどの空地があった。「あれを荒れた

中国（台湾）における読解読書指導について、これまでに、つぎのように、報告・考察をしてきた。

○中国の国語教育(6)

「中国（台湾）における読解読書指導の構造」——（「国語教育研究」第二十一号）

○同(7)

「中国（台湾）における読解指導——『中学国文教学法講義』（章微頼編述）のばあい(1)——」（「教育学研究紀要」第十八巻）

○同(8)

「中国（台湾）における読解指導——『中学国文教学法講義』（章微頼編述）のばあい(2)——」（「福岡女子短大紀要」第八号）

前稿(8)では、「中学国文教学法講義」の論述に従いつつ、読解指導論中おもに指導過程論について、紹介・考察した。

本稿は、同じく「中学国文教学法講義」所載の、編述者章微頼氏

ままにしておいてはほんとに惜しいわ。あなたがた南京豆が大好きだもの、開墾して南京豆畑を作りなさいよ。」と母が言った。私たち何人かの姉弟とねえやさんたちはとても喜んで、種を買う者は種を買い、土を耕す者は土を耕し、畑に水をやる者は水をやった。すると、数ヶ月もたたないうちになんと收穫があった。

②母が言った、「今夜はみんなで收穫祭をやるどいいわ。あなたがたのおとうさんもおよびして、私たちの南京豆を食べてみていたのだら、どう？」私たちはみな賛成した。母は南京豆で幾品もの食べ物を作り、さらにこのお祭りは畑のあずまやでやるようにと言った。

③その夜、空模様はあまりよくなかったが、おとうさんもやって来た。これはまったくめったにないことだった。

「おまえたちは南京豆が好きかね。」とおとうさんが言った。私たちはわれさきに「好き」と答えた。

「誰か南京豆のよさを言うことができるかね。」  
「南京豆のにおいがいいわ。」と姉さんが言った。

「南京豆は油が作れるよ」と兄さんが言った。私は、「どんな人だかってみんな安い値段で買って食べられるから、みんな南京豆が好きだよ。これがそのよいところさ」と言った。おとうさんはこう言った、「南京豆の使い道はもちろん多いけれども、一つとても貴いところがある。このちっちゃな豆は、あのきれいなりんごや桃やざくろとちがって、その果実を枝につけて、あざやかな色どりが人に一目で羨望の心を起こさせることはない。それはただ果実を地下に埋めたまま、実が熟すまで掘り出すことをゆるさない。おまえたちがたまたま地上に小さくなって生えているのを見ても、それに実がつい

ているかどうかすぐには見わけられない、それに触ってみてからでないかわからないだろう。」

④私たちはみんな「そうですね」と言い、母もうなずいた。父はことばをつづけた、「だからおまえたちは南京豆のようになりなさい。南京豆はりっぱで、みばえのするものではないが、役にたつものだからね。」「じゃ、人間もえらい、格好のいい人なんかじゃなくて、役にたつ人にならなければならぬんだね」と私は言った。おとうさんは、「おまえたちに対する私の希望だよ」と言った。

⑤私たちは夜ふけまで語って集いは終わり、南京豆のご馳走はすべてなくなったが、しかし父の言葉はいまなお私の心にしるざれてい

つぎに、章微頼氏による「落花生」の指導案の全文を訳出する。  
国語読解（精読） 指導指導案例

観 材 教	年 組	中学校 一年甲組	週 期	第二週第一・二・四限 (計三時間) 指導者
	単元教材	落花生	教材の出版	初級中学標準本国文第一冊第二編 許地山著「空山靈雨」より
<p>この作品は散文の小品（小品雜記）である。作者は（この作品で）、幼時、家で姉と弟と裏の空地に落花生を植え、（その）收穫を祝う家庭夕食会を催した。（そのとき）父南英さんは、（子どもたち）めいめいがあげた落花生の長所によりながら、落花生に「人に一目で羨望の心を起こさせることはない」「りっぱで」（あるが）「見ばえはしない」というきわめてすぐれた点のあ</p>				

標 目 導 指		具用の導指
面方質実 (標目価値)	面方式形 (標目能技)	
生徒に、人はいっしんに励み、つとめて自己の充実を求め、真の才能と確かな学殖を養って、国家・民族および人類のために最大限に貢献すべきであることを明瞭にさせる。そしてそれによって、真実を追求する精神を鼓舞させ、これを誠実に実践するよう指導する。	生徒に、事に託して理をさとそうとするとき、まず事を記してから理を説くという散文の文体の例、および対話を使って啓発していくという形式を順次展開させることによって要旨を引き出すという作文技法を、習知させる。	落花生の植物掛図と(その)果実(あるいは標本・模型・幻燈など)。 落花生の植物掛図と(その)果実(あるいは標本・模型・幻燈など)。 落花生の植物掛図と(その)果実(あるいは標本・模型・幻燈など)。 落花生の植物掛図と(その)果実(あるいは標本・模型・幻燈など)。

程	過	導	指	教師の活動	生徒の活動
(3) そうです。みなさんはこのような粒のままの実を買って食べますか。落花生をその		(2) そうです。これは落花生です。通称または略称花生ともいいます。江南の人は長生果と呼び、閩南語では土豆といえます。台湾でもこれを生産しますか。みなさんは好きですか。値段は高いですか。	(1) 教師は、落花生の掛図を黒板にかけ、片方の手で図をさし、片方の手で落花生をさし「これはなにですか」ときく。 一、導入	(付) 予習活動 (この段階の活動は、前課の教材が終わったのち、15〜20分以内に行なう。)	答：花生、落花生、土豆。
答：あります花生糖、花生		答：台湾では多く生産し、街のどこでも買えます。わたしたちみんな好きです。いつも買って食べます。値段もとても安い。			

(6) 20分 分配間時

他の食品に加工したものを食べたことがありますか。

④落花生はこのようにわたしたちが間食や軽食にして食べるだけですか。

(5)そのとおり。落花生は油にすることができ、花生油は栄養たっぷりの植物油で、広く調理の原料に使われ、きわめて重要な経済価値をもっています。ところで、その成長状態を見ると、それはまた、あるすぐれた特長をもっていることを、みなさんだから知っていますか。

(6)おはなしできる人はいませんか。みなさんごらん下さい(掛図をさして)ノその長所としてスマートだといえるでしょうか。人の気をひくでしょうか。しかし、それがかえってこのようにたいせつな用途があるというのは、ちょうど、いっしんに励み、真実を求め、志を立てて大事をなす、人間のようにですね。

答：花生醬、花生湯……。

答：ほかに花生油に作れるし、炒菜・煎餅・炸油条にも用います。

(答えられない。)

答：そうです／＼ ちがいます／＼

答：そうです／＼ ちがいます／＼

(7)これからわたしたちが予習する作品は、落花生のこの特性をときあかす文章です。教科書七ページを開いてください。どんな題目ですか。

(8)そうです。落花生です(そう言いながら「落花生」の三字を板書する)。

二、題目を説明する

(1)この題目の文字(板書の「落花生」の三字をさし)は、みなさんは、たぶん、どれも、知っており、わかっています、もう説明の必要もないでしょう。さあ、みなさん、ちょっと読んで、音読できるかどうかやってみなさい。

(2)よろしい。カ×凸、尺×Y、尸。落花生の収穫の時期、生長の状態やわが国の産地など、各自、理科の教科書や地理の教科書で調べたり、理科の先生や地理の先生に尋ねておきなさい。みなさんの家に、落花生を植えているものは、友だちに話して聞かせなさい。

答：落花生。

斉答：カ×凸、尺×Y、尸。

静かに聞き、黙って書く(あるいはすんで教師の指示する予習事項を記録する)。

(2)

三、作者の経歴を調べる

(1) 本文の作者許地山は、本名贊勋、**「望」**は「坤」の字と同じ（板書）。かれの経歴は、教材の後に略伝がつけてあるので、各自よく見ておきなさい。

(2) 作者の筆名は落花生といいますが、どういふわけでこの筆名を用いるか、みなさんこの作品の予習が終つてから考えておきなさい。

四、教材（作品）の大意を略述する

(1) 教材の（展開）順序に従つて、全文の大意をひととおり講述する。

(2) みなさんきちんと聞きとりましたか。

五、文体を弁別する

(1) わたくしが、いま講述した教材の大意に照らしてみても、この作品の文章はどの文体に入れたらよいでしょうか。

(2) そうです。この文章は、まず事を記してから、あとに意見を記しています。その記している意見は事理を論説したもので、しかもその執筆の主旨はそこにあるのです

(1)

(2)

(3)

静かに聞く。  
齊答：よく聞  
きとれまし  
た。

答：記叙文  
（または論説  
文）。

静かに聞き  
「事により理  
をあらわし、

から、みなさんのあるものがそれは論説文

だと言ふのも、またまったく理由がないこ  
とではないのです。しかし、本文は實際た  
だひとつの事件についての記述であつて、  
そのなかに事理を論説したところは、わず  
か全体の一部にすぎません。作者は、この  
幼いころに経験したことについて、ありの  
ままに思い出して書いているのですから、  
執筆上の文体という点からいへば、記叙文  
体に入れねばなりません。嚴格にいうなら、  
記叙文の一種で、事により理をあらわし、  
事に即して理を説くという文芸的性格の小  
品散文（雑記）に近い（「事により理をあら  
わし……小品散文に近い」までを板書し  
ながら）。

六、詞（単語）・句（文）・文の意味を  
索解する

(1) 本文の詞・句は平易でわりやすく、みな  
さんは、どれも、後注を精細に参閲する  
と、詞・句逐一理解できます。注にないも  
のや注のなかに出る新出の詞語は各自調べ  
て予習ノートに記入しておくこと。調べて  
もなおわからないものがあれば、友だち同  
志で研究しておきなさい。

事に即して理  
を説くという  
小品散文」  
を、題目の下  
に注として記  
入する。

静かに聞き、  
予習のとき指  
示をよく守る  
ようにする。

(3)

(2) 首句の「半ムーの空地」の「敵」は、わが国の古い田畝制によるもので、現在の基準ではなく、その面積の関係については、辞海や辞源で調べておきなさい。

(3) 「隙」「嫩」字の書法をよくみて、各自なんども練習しておく。

(4) 八ページ三行めおよび十一行めの「祇要」(ただ……さえすれば)、七行めの「祇把」(ただ……まま)の、これら三つの「祇」字は、すべて「只」字と同じです。すなわち前課二ページ二行めの「只要徒頭至尾」の「只」字です。

### 七、全文の段落要旨を把握する

(1) みなさんは、詞・句・文の意味を調べてから、後注の文話を参照して、全文をきちんと段落に分けます。同時にそれ(段落要旨)をしっかりと記憶し、骨格を整理して、学習に利用するようにしてください。

### 八、研究と鑑賞

(1) 人只要做有用的人、不要求外表面」この

静かに聞いて「敵」字の横に傍点をうつ。

静かに聞いて

「隙」「嫩」

二字に傍点をうつ。

静かに聞いて

各「祇」字の

かたわりに

「只」字をそ

える。

静かに聞いて

予習のとき指

示を守るよう

にする。

道理を各自しっかり考えておきなさい。

(2) また、後注の解題をなんども読む。(そして)前課の人は「志を立てて大事をなさねばならないという道理を合わせてみなさい。

(3) 作者の姉・弟たち三人の言う落花生の長所は、それぞれからの生活と考え(思想)を反映しているようです。じゅうぶん味わってみなさい。

(4) 八ページ十行中「母親也点点頭」の一句は、つまりそれはどういうことですか。じゅうぶん味わってみてください。

(5) 本文中のどの一段がもっとも簡潔か、どの一段がもっとも流暢か、数回読み返して、みわけがついたら鉛筆でしるしをつけておきなさい。(予習指導が終わると、生徒に各自予習に心がけさせる。)

以上どれも静かに聞き、黙って書くか忘備のためにノートしておく。

静かに聞き、その句に傍点をつけ、予習のとき指示を守るようにする。

(3)

(1)

第一時限

一、前課のノートの批正

(1) 前課のノートは、すでに昨日班長に返してもらいましたが、みなさん受け取りましたか。

斉答：受けとりました。

(2) このたびのノートは、みなさんみんなじめにできていて、たいへんよかった。これからもいつもこのようにまじめにしなければなりません。字のかたわりに、赤ペンで×がつけてあるのは誤字、△がつけてあるのはうそ字、各自自分で調べて訂正しなさい。(わたくしが) みなさんに代わって訂正したところは、よく見ておきなさい。教科書中に、すでに出た詞語の注釈は、つきからは写しとらなくてよろしい。A君とB君のノートはとくによく整理してきちんと書いていました。だいたい見るたびに努力して、進歩しています。まだ何にかの書法はたいへんいいかげんでしたので、しだいに改めていくよう希望します。

教師の批正を静かに聞き、各自ノートを検閲する。

二、前課の学習テスト  
(1) 若干の字の注音、若干の詞語の解釈、若

生徒はテスト

(4) 50

(12)

干の句の訂正問題を板書、生徒に紙・筆記用具を出して八分以内に答え提出させる。

(2) 教材のうち二小節を選んで指名して、解釈させ、ほかの生徒に誤りを訂正させる。

の問題を聞いて規定時間内に提出する。

二人つづいて指示に従って解釈しほかの生徒が訂正する。

三、題目について講述する

(1) わたしたちは、きょう、どの作品を学習することになっていきますか。どういう題目ですか。みなさん予習しましたか。

斉答：第二課「落花生」。

予習しました

(2) よろしい。(題目を板書しながら) この題については、みなさんすでにわかっているののでくり返し説明することもありません。わたくしは、みなさんに、予習するとき、落花生の収穫の季節、成長の状態およびわが国の主要産地などを、調べておくように言いましたが、すべて調べ終わりましたか。(生徒が挙手、教師はそのなかから選んで指名する。)

若干の生徒が挙手する。数人が指示に従って答え、ほかの生徒が訂正する。

(5)

(3)整理と補充——落花生は一年生草本豆科植物です。ふつう、夏植え秋に収穫し、つるは地面に伸び、花は小さく色は黄色です。花が落ちるとき、子房が土にはいつて実を結ぶのです。およそ砂地の地質なら、どこでも栽培できます。わが国の沿海はどこも盛んに産出しますが、華北および台湾の生産量がもっとも多く、天津・青島が大出荷場になっています。台湾ではほとんど全島で栽培でき、かつての統計では年産量二十万石近い。その生命力はきわめて強靱で土地の肥瘠にかかわらず、旱魃をもものとせず、病虫害をおそれず、まったく人手をわずらわしません。しかもその貢献するところきわめて大、まさにひとりの、刻苦耐勞し、志を立てて大事をなす、人間のようです(要点を板書)。

四、作者の経歴を講述する

(1)生徒ひとりに指名し、後注の作者略伝を参照して講述させる。

静かに聞き、板書を書きとめる(あるいは自分の予習に照らしてノートを補正する)。

ひとりが指示に従って講述しほかの生徒が訂正する。

(4)

(2)補足——作者は民国十一年燕京大学宗教学部卒業、五四運動時代に立ちあがった、ただひとりの、台湾出身の中国新文学運動家です。のち、米國コロンビア大学へ留學文学修士の学位を受けます。それから英國のニューチン(牛津)大学に転入し、梵文学を学ぶとともに、仏教を研究しました。十五年に帰國、燕京大学教授となります。二十四年には香港大学教授となります。著作には、文学作品のほか、仏・道二教に關するものが多い(要点を板書する)。

五、全文の大意を講述する

(1)生徒ひとりに指名して講述させ、討論し訂正する。

(2)教師が訂正補充する。

六、文体を講述する

(1)生徒ひとりに指名して講述させ、討論し訂正する。

静かに聞き、板書事項を書きとる。

ひとりが指示に従って講述し、ほかの生徒が訂正する静かに聞く。

ひとりが指示に従って講述し、ほかの生徒が訂正する。

(5)

(4)



(2)補足——記叙文は、既発既存の、人・事・景・物を書くのですから、真実をきわめるようにせねばなりません。まず重点を決め、つぎに関連材料を簡取し、それから順序を考え、順を追って書いていきます。とくに幾句かの説明語をつけ加えて、どこどこがどうしてそうなるのかを説明せねばなりませんし、また幾句かの議論語を挿入して、作者の意見か感想を表示するようにならねばなりません(以上板書する)。この作品の作者は、たまたま、旧事を回顧し、題材も単純で、しかも文芸的性格が強いので、記叙文のなかでは散文の小品にはいりません。

七、段落に分けて教材を読む

(1)全文を五段に分け、五人の生徒に指名して順番に音読させる。そのほかの生徒はそれについて読む——音読するとき、字音・句読に誤りがあれば、随時訂正するほか、討論し訂正する。

静かに聞き、板書事項を写しとる。

五人が順番に指示に従って読む。ほかの生徒はそれについて音読し、同時に訂正に注意する(あるいは共同討論し訂正する)。

(12)

(2)各段を読み終わるごとに、生徒に予習時に調べのつかなかった新出・難語句を提出させ、随時板書して処理にそなえる。

八、新出・難語句を処理する

(1)たいへんよろしい。みなさん、みんなわかってますね。さて、わたしがいくつかの語句をみなさんに質問しますから、それを見てどれも答えられますね(つぎの語句を板書しながら)。

怪可惜(とても惜しい)・収穫吩咐(いいつける)・懸・理・鮮紅嫩緑(あざやかな色どり)・接触・偶然

(2)若干の読音と解釈の誤りを訂正する。

第一時限が終わったところで、生徒に各自十回以上細かく読んでおくようにさせる。

(本文の詞句は平易で、生徒は予習で調べがついているので、質問するものはない。)

生徒は判断して指示に従って解答する。同時に共同討論し訂正する。静かに聞き自分で注をつける。

(4)

第二時限

九、教材を通釈（読講）する

(1) 教師が概括的に通釈する。——まずゆつくり教材を一回音読する。つぎに原文の意味をそのままに一度講述する（教科書を見ない）。

(2) 生徒が通釈する。——全文を五段に分け生徒五人に指名して、つぎつぎと順番に詞句にわたって逐一通釈させ、ほかの生徒に訂正させる（生徒の通釈は、きちんと文に分けさせ、一文一文通釈させる。通釈中、つまったときは、ほかの生徒に質問させ進行に協力させるか、すぐに指示を与えてはやく進むようにさせるかせねばならない）。

(3) 教師が補正し通釈する。——生徒が一段通釈し終わるごとに、教師は系統的に補正し通釈する。

① まず教材を見ずに教材の意味を一回講述する。その段の全文における位置・関係・価値を指示する。そして本文の実質方面の目標（価値目標）を把握し、これを酌量し、つまびらかにし、活用する。

静かに聞く。

五人の生徒は指示に従って通釈する。ほかの生徒は静かに聞いて訂正する。

静かに教師の通釈を聞き、必要と思われるところは筆記したり傍注をつけたりする。教師から質問があれば

50

<7>

<18>

②

② つぎに、詞・句について逐一読みとき、生徒の通釈でじゅうぶんにははつきりしなかったもの、および、とくに、せびとりあげねばならない詞語法について、詳細に講釈する。同時に形式方面の目標（技能目標）を把握し、類比・例証を多く出して、その読み書きの応用を指導する。その時にまた、随時生徒に質問し、それぞれの予習状況を調べる。筆記注解すべき事項は板書して生徒に書きとらせる。各段が終わるごとに、しばらく時間をおき、生徒がよくわかっているかどうかをきき、質疑させる。

付——とくととりあげねばならない詞語および句法（討論式で行なう）

① 半畝：わが国の旧畝制では、一畝は（現在の）六・六六七公畝で約百坪に当り半畝は五十坪です。

② 既然……就……からは……：讓歩または推進を表わす複文。  
例 雨が降り出したので、わたくしは街へ行かなかった。

③ 姉弟幾個（なんんかのかきょうだい）：作者には三人の兄と二人の弟があり、きょうだい全部で六人、作者は第四番めです。

指示に従って答える。同時に板書に注意し、随時予習ノートと対照して、補正したり写したりする。

静かに聞き、随時教師の提出する問題を共同討論し訂正する。

姉妹の人数および文中の姉・弟と兄の名まえはすべてはつきりしません。

○買種(種を買う者は種を買い) : 「的」は代名詞で、古文の「者」と同じ、「買種的人買種」と同じです。

④ 爹爹(パパ) : すなわち父親、作者の父、名は南英、字は允中、光緒十六年進士、かつて台南団練(旧時設けられた各地の自営団)局統領となり、二連隊を率いて抗日運動に参加しました。福建に帰ってから、なか知事をつとめました。著書に詩集「窺園留草」があります。

⑤ ○固然……且……還(もとより……であるが……そのうえまた) ○雖然……然而……還(……であるが……しかし……また) : この二例とも転折を表わす複文です。前式は甲句の事実を確認するばかりでなく、乙句ではさらに一步進めます。後式はたとえ甲句が事実であったとしても、乙句の事実が甲句の影響によらずしてなお発生するものだということを示します。

第二時限が終わると、生徒に用心して音読し各自深究するようにさせる。

### 第三時限

#### 十、深究および鑑賞

本項で深究する各点のなかで、すでに教師が補正して、講読中にこれに言及しているものは、ここでは省略してよい。

(1) 生徒に質問する：教材の詞・句・文の意味などについて、まだ理解していないことはないか、あればとりあげる。

(2) 生徒ひとりに指名して、解題を講釈させる。

(3) 生徒ひとりに指名し、本文を参照して、本文の段落要旨を講述させる。(まだ段落の大意を列挙していない教材は、教師は討論方式で段落の大綱を作成し、生徒に書きとらせねばならない。)

(全員理解しているときはとりあげない。)

ひとりが講釈しほかの生徒がこれを訂正する。

ひとりが指示に従って講述し、ほかの生徒が討論し訂正する。

(4)各段落の位置・はたらき(作用)・関係・価値を研究する：本文は文話にあげるように五段に分かれます。なかでも三・四段は主文(正文)、第一段が前文(前奏)、第五段が補足(余波)、第二段が一・三段間の連結のはたらきをします。

① 主文(三・四段)についていうと、

「その夜、空模様はよくなかったが、おとうさんもやって来た」が発端で、「私たちみんな『そうです』と言ひ、『おまえたちに対する私の希望だよ。』と言った」が結びです。中間の大段落(三段)は主文中の主文で、しかも父親の話が中心になっており(主題の中心があるところ)、作者と兄さん・姉さんたちの、このやや幼い話を導入とし、(主文を)引き出しもりたてるようにしたのです。父親の話に至って、落花生のすぐれた特徴を論じますが、これが主中の主であり、りんご・桃・さくろをあげて、逆にひきたたせようとしたもので、(これらは)主中のもりたてた役になります。最後に作者が恍然として「人は役にたつ人間にならなければならぬんだね」とさとるところで、明白に主題を打ち出して、ついに一篇の完全な落花生論となつて

静かに聞いて黙って筆記し、随時傍注し、ノートする。教師が質問すれば指示に従って答える。

いるのです。

② 前文(一段のこと)と補足(五段のこと)は、文章に必ずあるものでもなくまた必要なものでもありません。ただ、本文にも落花生を播種し収穫するということがなければ、また(収穫)祭のこともないわけです。さらにいえば、このことは作者にとってきわめて印象深く、作者一生の性行に影響しました。その名をとって筆名としたのです。つまり、こういうわけで、とくに追憶してこの作品が成立したもので、そのことを末段で明らかにしたのです。第二段は、収穫祭の準備について書き上段をうけ下段を起し、主文に導入する主要な鍵になっています。

③ 全文、事理の展開は自然な経過で描写され、順序もきわめてきちんとしており文辞もまた質樸平易で、含蓄に富んでいてわかりやすく、情味醇厚です。

(5)思想内容を明らかにする：落花生の用途の大であることと徳性の美しいことに借りて、前課の「立志做大事」との関連を啓発する。すなわち、人はいっしんに励み、真実を追求し、人間として最大に貢献する理

静かに聞き黙って記録する。随時傍注をつけ筆記する。教師の質

をきわめ、(そのことを)開明にし発輝せねばならない。同時に、作者の父母の子女教育への注意と、作者の領悟力の強さと、感受性の豊かさを指示してやる。

(6) つぎの問題をそれぞれ討論する。

① 第四段の「母もうなずいた」の一句はどういうはたらきをしますか。本文の話は、父親が主になっていますが、事件という点では母親が主です。彼女が提案して落花生を植えたのだし、収穫祭を発起し準備したことも、みんなそうなんです。以下父親の話が中心になるにつれて、母親のことにふれてないので、もしこの一句をつけ加えなければ、母親についての描写の結末がないわけで、この部分を呼応させて結びましたのです。

② 収穫祭には父親がやって来ましたが、どういうわけで作者は「まったくめったにないこと」と言ったのでしょうか。かつての読書人は、行動きわめて謹直(いわゆる道学気質)で、遊興的なことには、その家庭内のことでも気やすく参加しなかったのです。この一句もこうした事情を暗示しており、同時にわたくしたちはその父親

問があれば指示に従って答える。

教師の質問に従って共同討論し訂正する。教師が整理補充するのを静かに聞き筆記し傍注し板書を書きとる。

同前

があらかじめ、この機会を借りて子女教育をしようという気持ちがあつて、さいわいとばかり進んで参加したのだということを知らねばなりません。

③ 作者や兄さん・姉さんの落花生について説くことに、その生活や考え方が反映しているのはどんな点ですか。姉さんは家の中にとじこもっているので、落花生について、ただおいしいというだけではか知りません。兄さんは見聞がやや広く、それにいつもお使いに油を買いに街へ出かけるので油についての意識がとくに強い。作者は人並みはずれて総明だったので、すでに社会民主思想の端緒をつかんでおり、それで大衆の利益をつかむところまで考えていました。

④ どの段の文辞がもっとも簡潔ですか。またどの段の文辞がもっとも流暢ですか。初段の母親の空地を利用しての落花生の播種から、収穫、空地の所在、空地の状況、作者たちが落花生が好きであること、家にきょうだいがいることなどに至るまで少しの遺漏もありません。材料もきわめて豊富で、しかも前文は長くなってはならないので八十一・九十字でおさまっていて、き

同前

同前

わめて簡潔な手並みといつてよく、語勢もはなはだ軽快です。落花生のすぐれた点についてかえってまともから説くことで、作者たちが自明に人間たるの理を啓発されるように、とてもとおりのいいものになっています。

⑤ つぎの各詞語を比較して、たがいに置き換えることができるかどうかやってみなさい。隙地―空地・很賤―很便宜・引入垂涎（水をやる）―引入口水直流（あるいは引人眼紅）・夜闌纔―夜深纔散・印在我的心板上（わたしの心にしるされている）―心印在我的心頭

十一、朗 読

(1)教師が一・二回範読し（調子が文中の情感に合うように）、生徒はそれについて黙読させる。

(2) 国語のよくできる生徒二・三人に、かわるがわる領読させ、全体はそれについて朗読（または黙読）する。

共同討論し訂正する。改めてよいと認め

たばあい国語符号と合わせる。（段落に従って注をつける。）

みんな教材を注視し教師の朗読について黙読する。

二・三人が指示に従って領読しほかの生徒はそれについて朗読または黙読する。

(4)

十二、応用練習

(1) つぎの各語を用いて文を作りなさい。

- ① 既然：就（…したからには…）
- ② 固然：但（むろん…だが）
- ③ 所以：因為（…なのは…だから）
- ④ 無論：只：都可以（…にかかわらず…）
- …でありさえすれば…すべてでできる

(2) 落花生はある点で、ひとりの「立志做大事」の人であり、二・三の話をしごとく簡単に説明しなさい。

まとめ―新教材の予習指導

（活動項目は新教材の状況をみて、本指導案のはじめに付してある予習指導項目を参考にして行なう。）

第三時限めが終ったあと、自修時間に筆記したもの（ノート）を整理し、用心して熟読する。そして新教材を予習する。

それぞれ練習帳を出して問題順に文を作り、規定どおと収集提出する。

教師の指示する項目に従って適当に反応する。

(15)

(8)

付言——指導案作成の注意

- (1) 教材の価値およびその指導目標を理解しておく。
- (2) 指導事項・過程を配慮して順序を分配する。
- (3) 内容・活動を決定し、生徒の反応を予想し、正確に時間配当をする。

三

教科書教材の指導案によって、前稿(8)でとりあげた、いわば理論としての指導過程論を、みずからみごとにかつ正確に具体化してみせている。

教材の原文は擬古文であって、完全な白話体ではない。さらに、旧字体の漢字表記、標準語の定着度などを考慮にいれると、表現面からいっても必ずしも平易な教材であるとはいえない。また、一見教訓臭さえ感じられる内容も、吟味すると含蓄の深いものであること、章氏が指導案のなかでみごとに説明している。ただし、中学一年の教材に適切な好短編であるという教材観は、当をえているといえよう。

指導案について、ごくおおざっぱに、つぎのような点が指摘できようか。

- (1) 一貫して正統な解釈主義の視点に立ち、系統的・体系的に計画されている。そしてその意味で一種の完備な指導案であるということもできよう。内容・形式両面からの分析と鑑賞は、細部にまでゆきわたり、この作品を正確にとらえて、説得力に富む。
- (2) この国における伝統的要素と近代国語科教育の接点を意欲的に求めようとしている。西洋中心への傾斜のなかにあるわれわれ日本人が、中国文化財の価値を認識することは口でいうほどたやすくな

い。そして、この国のひとびとの生活が、どれほど深く、たとえば古典とかかわっているかについても、またかかわるべき古典をもつことに、この国のひとびとがどれほど誇りをもっているかについても、われわれの日常と比較しにくいほど、吉川幸次郎博士がしばしば言及されている。この国の伝統的な国語(国文)教育は訓詁の教育であったといえよう。その伝統の性格をふまえつつ、しかも近代国語科教育の流れをくみいれようとする苦心の相が、この指導案にはにじみ出ているといえる。

- (3) 教師主導型の文字どおり指導案であり、学習的要素はうすいものとなっている。その転換をじゅうぶんに果たしていないところに、この国(台湾)における国語科教育のレベルと特色があるように思われるし、この指導案の基本的性格があるようである。

四

指導案であってあくまで机上の企画ではある。しかし、章氏の経歴や師範大学が充実した付属中・高校をそなえていることなどを考え合わせると、実際からそう遠いものではないとみてよからう。

前稿(8)で述べたところであるが、比較検討と評価・位置づけは、さらにじゅうぶんな資料の裏づけをまっけて行なうべきである。それにしても、とくに、今回は章微頼氏の読解(精読)指導指導案を報告することに多くを費し、その点への論及はきわめて少ない結果となった。

注

- (1) 「中学国文教学法講義」(章微頼編述・国立台湾師範大学印行・一九六五年十一月初版)

- (2) 「中文選読」(金丸邦三著・日本放送協会・一九七三年七月五日)
- (福岡女子短期大学)